

2019年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2020/9/30

団体名	NPO法人 北海道CAPをすすめる会	活動タイトル	子どもの安心・自信・自由を支える北海道&リアスCAP協働事業			
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景			
● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)	子どもの被害を包括的に捉えてその発達に合わせて提供するCAP（Child Assault Preventiom／子どもへの暴力防止）実践活動を通して、子どもの人権「安心・自信・自由」が守られ、一人一人の子どもがその生きる力を十分に発揮し、地域で安全に暮らすことができる社会の実現をめざしている。		 <p>CAP紹介資料「今こそ北海道にCAPを広げよう！」パンフレットを作成しました。</p>			
● 団体の社会的役割(ミッション)	地域でのCAP活動の普及を進め、子どもの人権を守る。子どもへの暴力予防の専門家として学校・家庭・地域や関係機関をつなぎ、安全なコミュニティの構築に貢献する。特に災害などで日常の安定が脅かされたときには子どもはより暴力の被害に遭いやすいため、被災地などには優先してCAPを届ける必要がある。札幌市を拠点に先駆的に20年間CAP活動を継続し経験と実績が豊富な当団体が、活動困難な被災地域のCAPグループの人材育成を支援しながら、一緒にCAP普及活動を行い、子どもへのCAPワークショップを提供する。					
● 団体の活動基盤	人材育成：CAPトレーニングセンターJ-CAPTAと連携して、プログラムを実践するCAPスペシャリストの育成とスキルアップ、運営マネジメントの継続した研修を行う。 リソース：子ども支援および子どもへの暴力予防・介入・治療に関わる機関や団体との連携 活動資金：主にプログラム提供の際の受益者負担と行政委託による事業収入で運営しているが、さらに会費や賛同者からの寄付、自主事業による財源を高める。 ナレッジ：CAP活動は、子どもの人権と暴力予防の分野においては先駆的かつ普遍的であることを強みに、その効果を時代に合わせた方法で広げる。					
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			
<p>東日本大震災復興途上の岩手県沿岸地域と北海道胆振東部地震の被災地域の子どもたちの人権を守り、子どもへの暴力を予防し、子どもの生きる力「安心・自信・自由」を支えることを目的に、被災地域を活動エリアとするCAPグループ（CAPリアスとCAPむろらん）のCAP実践者を協働で育成しながら、CAP普及活動を行った。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 北海道胆振東部地域でのCAP広報普及活動と、胆振東部地域につながるCAPおとなワークショップの開催 リアス地域でのCAP提供を支援するスタッフの派遣 人材育成のための共同ワークショップの実施 賛同者を増やすための広報啓発報告会の開催 <p>を行いました。 なお新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、実施期間を3か月延長し2019年9月から2020年11月までに修正した。</p>			<p>(1)北海道胆振東部地域CAP広報普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道内の7CAP団体が共用できる広報リーフレット「今こそ北海道にCAPを広げよう！」を作成した。（3,000部） 胆振東部3町（3回）と札幌・胆振10か所（10回）を訪問し、広報活動を行った。 胆振東部地域につながるCAPワークショップを公開1回（北海道室蘭市）、子ども支援者向け1回（札幌市）開催した。…感染拡大の影響により3町各1回公開おとなワーク開催が困難となり「つながる」に変更。目標未達成のため継続して取り組む。 <p>(2)リアス地域でのCAP提供を支援するスタッフの派遣（2か所4ワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童養護施設（職員ワーク1回・子どもワーク2回）、小学校（教職員ワーク1回） <p>(3)人材育成のための共同ワークショップの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道地域公開おとなワークショップ7回、練習学習会7回、運営会議7回 <p>(4)賛同者を増やすための広報啓発報告会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲストを招いての広報啓発報告会3回（札幌市）、同じ活動をするCAP団体が集う大会で1回（福島県喜多方市） 		<p>人材育成共同ワークショップ&地域普及おとなワークショップの様子</p>  <p>広報啓発報告会の様子</p> 	
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）			
<p>①広報普及をする際のCAP成果の根拠となるデータと仮説（「安心とは選択肢が増えること」）を得た。当会実施のCAP子どもワークショップ事前事後アンケート【調査対象者・小学3年生1,200人（35クラス）】から、実施後の「できること」の選択肢が1.3倍に増えた。</p> <p>②持続可能なCAP実践団体としてのスタッフ数…当会開発人材育成チェックシート（CAPスペシャリスト「できることチェック」・「半人前一人前チェック」）を使って、同じ活動をしているJ-CAPTA管轄の年間ワーク数ベスト3の団体へ測定依頼した結果、「ベシッケー人前★（スター）」が5人以上必要という結果が得られた。</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>北海道&リアスメンバーの人材育成とCAP（子どもへの暴力防止）活動への協力者賛同者の拡大</p> <p>を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（効果測定結果等）</p> <ol style="list-style-type: none"> 活動に共感する仲間が増えました。（会員数1.7倍） 地域から新規ワークショップ依頼がありました。（事業参加者による広報でコロナ状況下の札幌市内の保育所2か所） 人材育成が進みました。（協働団体メンバーの36%、当会メンバー28%にスキルアップが見られた） 			